



たもんじ 2025年2月号 交流農園便り Vol.83



すみ里プロジェクト(続・御前栽畑復活プロジェクト)始動!

すみ里プロジェクトファシリテーター 中小企業診断士 佐々木 静



江戸時代隅田川沿いで将軍家の野菜を育てていた畑を復活させる「御前栽畑復活プロジェクト」が新たな局面を迎えました。「御前栽畑を復活させたい!」という機運を高めるため、まずはすみだの多くの方に農の良さを感じてもらうことを目下の活動目標に据えました。これに伴いプロジェクト名も「すみ里プロジェクト」に変更します。キーワードは「農をもっと身近に」「主役は参加者」「オールすみだで連携」の3つです。墨田区全体にみんなが自由に農に触れ、交流できる里地里山の空間を増やすよう活動してまいります。

「すみ里プロジェクト」のコンセプトを広く多くの方に知ってもらうため、皆が共通で使える標準提案資料を作成しました。今後はこの資料を活用し、地域住民の方々だけでなく、

行政・地元企業・学校などすみだに関わる様々な団体にアプローチし、賛同をいただくとともに、それぞれの団体に合わせたかかわり方を一緒に考えていきたいと思っております。



地域全体で緑や農空間を増やす取り組みは、他の地域でも事例があります。1月27日(月)に中央区の「浜町みどりプロジェクト」を見学させていただきました。安田不動産が中心となり、街の魅力を高めていくため、空き家をリノベーションして店舗を誘致するなどの取り組みをしたり、町全体に統一感のある緑を植えたり、企業や住民の交流の場を設けたりしています。中央区という土地柄もあり、住民だけでなく企業や働く方を巻き込むという観点など、「すみ里プロジェクト」にも取り入れられるエッセンスを学ぶことができました。



「すみ里プロジェクト」はどなたでもご参加いただけます。大きなことはできないけれど、ちょっと応援するくらいならできるかも…という方でも大歓迎です。まずはより多くに皆様に活動を広めてもらいたいと考えております。ご興味お持ちいただけましたら、是非お気軽にお声がけください。

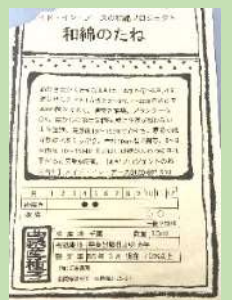


NEXT STAGE
～次に私がしたいこと～

第20回 染谷さん(区画8-2)

“今まで作らなかった野菜作り”

昨年の春に”和綿の種ひろがるプロジェクト”という和綿を育てるプロジェクトを知り、「種を守るということは育てて収穫していくことだ」というプロジェクトの目的に共感して、初めてでしたが、参加することにしました。土作りをし、送られてきた「和綿のたね」を植え、七割ぐらいの発芽率でしたが、順調に育ち、夏にはやさしい色の花を咲かせ、秋には実をつけ、実がはじけて真っ白な綿



が出来ていた時は、実にあたたかそうで感激しました。収穫したコットンは、プロジェクト本部に送り、夏頃にはハンカチになって帰ってくる予定です。

また、昨年の夏は、玄関先の植木鉢で、友達の助言で小玉すいかとメロンを育ててみました。主人の手伝いもあり、朝の受粉や雨に当てないなど手はかかりましたが、大きく育ち味も甘く、初めてにしては満足のいく出来で、新しい「初めて」への興味がメロンのように膨らみました。

「次に私がしたいこと」とは、今まで作らなかった野菜作りにチャレンジすることです。今までの「食べないから作らない」ではなく、一苗でもいいので植えてみることにしました。この冬最初のチャレンジ収穫は、白菜でした。一苗でしたが、大きく育ち、葉はやわらかく、おいしくいただくことが出来ました。こんなにおいしいなら、次の秋にはまた植えてみようと思います。そして今はパクチーです。購入したパクチーに立派な根がついていたので植えてみたところ、窓辺で少しずつ大きくなっていき楽しみの一つになっています。(因みに私はパクチーが苦手です)。春になったら、テレビの野菜の時間を参考に、ホームセンターに苗選びに行く時も何かチャレンジ苗を見つけ、今まで作らなかった野菜作りを楽しみたいと思っています。

今、ハマっています! 第34回 平田さん(可動式フロッターB)の場合



旅に出られない時は地元や近場で歩いて「見る」「撮る」「食べる」の三拍子に、たまに「買う」が楽しみで、プラプラと街歩きしています。其中で一番は、「撮る」です。

特に花や鳥、次に寺や神社等の建築物の写真をスマホで撮る事にハマっています! 最近では写真を撮った花の名前や建築や街の歴史等も調べる様になりました。

花では、此の寒い1~2月では探梅で、冬至梅やヤエカンコウ、蟬梅等、青空に映える写真が撮りたくて、つい青空を見上げるとソワソワと「梅の香りに誘われて」なんて格好の良い事言って。梅の追っかけをしています。

以前は「アオちゃん」と勝手に名前をつけたアオサギの追っかけをしていましたが…。亀戸天神さまの梅を見に行った時、久々にアオちゃんの写真が撮れて、早速気に入った梅の写真と一緒にFBに投稿しました。また、動画作りも楽しみになっています。スマホは

軽いし、操作も難しく考えずに只々撮っているだけだから私には、楽で楽しいのかもしれない。

此れからの季節は、賞梅の梅の咲き揃った写真が撮りたいです。そして桜も。勿論、農園の写真もアオちゃんもと思っています。地元の街歩きから逸れてしまいますが、実は先日、寒波到来で寒い中、桜の情報を聞いて「熱海桜」を寒さも忘れて夢中で写真を撮ってきました。此れからも「スマホで写真を」まだまだ撮る事にハマります。



花王石鹼前通りの冬至梅

亀戸天神、ヤエカンコウ

亀戸天神の蟬梅

アオサギ(アオちゃん)

百花園、一重寒梅

熱海桜

“てらたま農園部から”

第39回~菌ちゃん畝を作り直す! ~



てらたま共用区画では、2023年1月、菌ちゃん農法を提唱する吉田俊道さんのご指導のもと初めて菌ちゃん畝を作りました。寺島なすは他のナスと同様、多量の肥料と水を必要とします。そうした水やりの負担と肥料とが不要となるのなら言うことなしということで始めた菌ちゃん畝でした。講師の吉田さんは、菌ちゃん畝でナスを作ったことはないのだけど、と少し不安げでしたが、実験を兼ねてとにかくやってみようという挑戦が始まりました。

最初の年は予想以上の出来だったことに気をよくして、翌2024年には菌ちゃん畝を5本に増やしたのですが夏の猛暑のせいか少々残念な結果となりました。

でも、そんなことでめげる私たちではありません。標準的には数年くらいはそのまま大丈夫とのことですが、畝のエサを増やして菌ちゃん畝を作り直すことにしました。そこで改めて菌ちゃん畝の作り方を調べ直したところ2023年時の作り方とはだいぶ変わっていることがわかりました。大きな変更点だけ抜き書きしておきます。① 草は使わない(以前はアシなど固い草は有用ということでエサの下の方に入れていたがこれはNG)。② 土の高さを45cmにして、その上に落ち葉やもみ殻を10cmぐらいの厚みで載せ、その上に置いた土と混ぜ合わせる(以前は、エサの上に置いた土は混ぜずにそのままだった)。③ マルチの上に置く重しは20cm置きにする(以前は60cmの間隔だったが、それだと中の土が乾く)。詳しくは <https://kinchan.ocnk.net/page/2> を御覧ください。



水口アドバイザーご指導日: 2/23(日) 3/23(日) 10:00~15:00 農園部作業日: 毎週日曜 8:30~
わいわいおしゃべりタイム: 2/16(日) 3/16(日) 10:30~ 農園のみんなの情報交換の場。食べ物飲み物各自持参
Free Coffee フリーコーヒー: 1月・2月はお休みする予定です。
たもんじ交流農園新耕作者抽選会: 3/2(日) 12:00頃~ フルサイズ1区画(ないしハーフ2区画)の申込み受付中(末林まで、×切 3/1(土)24:00)、既に申込者複数あり抽選会を開催いたすもの(雨天決行)、Zoom中継予定。尚この日 10:00~は、チームうめわかさん主催で、オレンジの椅子のペンキ塗りの予定です。

たもんじ交流農園便り

No.83 般 2025.2.18 発行

題字 田村風来門

編集 末林和之



てらたま協議会

(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)

問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)

▲セブン-イレブン記念財団(2018年2020年に助成金を頂きました)

